



発電設備竣工式 記念式典開く

温泉熱を利用した地熱発電開始



洞爺湖温泉利用協同組合（若狭洋市代表理事）が進めてきた新泉源の温泉水を活用した地熱発電施設が完成し、3月10日竣工式と記念式典を開きました。竣工式は、有珠山金比羅火口近くにある同発電施設で行われ、地元や関係省庁などの関係者50人が神事に臨みました。

挨拶に立った若狭代表理事は「4年がかりで完成し、感無量。発電と温泉供給の連携で地域の活性化につなげていきたい。環境テーマのサミット開催地として、わずかな発電ですが、これをきっかけに地熱エネルギー活用の取り組みが日本全体で盛り上がっていつてほしい」と完成を喜びました。

午後からは、会場を洞爺湖温泉のホテルに移して基調講演と記念式典を開催。基調講演では、北海道立総合研究機構環境・地質研究本部地質研究所の秋田藤夫所長が、洞爺湖温泉の開発の歩みを概括し、地域での地熱発電の意義について述べました。

記念式典では、発電施設の

設置に関係した事業所に対し感謝状が贈られ、技術的貢献に感謝しました。

地熱発電に

利用する熱源

この地熱発電事業の始まりは、四十三山麓の泉源の温度低下の中で、高温資源を確保するために、平成25年度経済産業省の助成金を活用し行った新泉源の掘削の成功でした。この泉源は、金比羅火口近くで約135度の温泉水が毎分約400リットル湧出。

洞爺湖温泉100年の歴史の中で、100度を超える地熱水の湧出は初めてのことで

す。平成26年度には、国の認可を受け、地熱理解促進支援事業として、源泉を温泉利用するための設備を構築し、地域振興の一つとして温泉たまごの製造設備を併設。現在「ジオ

写真説明

- ① バイナリー発電システムと若狭代表理事
- ② 金比羅山にある新泉源と発電所敷地
- ③ 地熱発電施設完成竣工式